



学ぶということ

校長 安達 修久

いつまでも暑さが続くと思っていたら、急に冬並みの寒さがやってきました。朝や帰りに子どもたちへの挨拶で立っていても、つつい日向を探してしまいます。夏にはずっと日陰を探していたのに…。ポケットに手を入れて歩く子の姿が見られ始めて、「危ないから手を出して歩こう」と声をかけています。

先日1年生から手紙をもらいました。「こうちょうせんせいはちきゅうのみんなをゆたかであんぜんにしたいですよね。」



それにはどうすればいいのか、校長の私から手本を示して教職員にも行動してもらい、続けていけば学校のみんなが取り組んでくれるかもしれない。6～2年生も取り組んで、1年生にも手本を見せてほしい、という内容が書いてありました。

何とも大きな課題をもらってしまいました。今の地球に豊かで安全に暮らせていない状況の人がいるととらえて、何とかしたいと考えたのでしょうか。世界には飢餓や貧困、戦争や差別があり、地球温暖化など気候変動による危機的状況がある。これらの改善に向けSDG'sが提唱されているが、国連は2030年までに環境問題の面について、ゴール到達は難しいと発表した…。外で遊べないほどの猛暑、いつまでも続いた夏日、ほどよく秋らしい秋がないまま急激に冬が訪れる今の陽気も、気候変動の表れなのかもしれません。

何をどうすれば改善、解決に結びつくのか、途方もなくてすぐには考えが及びません。ただ、釜利谷小学校に通う子どもたちに、手紙をくれた1年生のように世の中で今起きていることをとらえ、ともに改善や解決に向かうことができるように、その力を身に付けられるようにしていくことが、今私にできることなのではないかと考えました。

「**たのしい わたしの学校～うけとめ つたえ ともにあゆむ**」の学校教育目標をめざして、本校教職員とともに日々教育活動を行っていくこと。子どもたちが、学力、人とつながる力を身に付け、自分の目で世界を見て問題をとらえ、解決に向けて考え行動し周りとは協力し合っていく。学校ではその基礎を育てているのではないかと。

150年前の釜利谷小学校の創立にあたって、世の中をつかっていく子どもたちへの地域の方々の思いが土台にあったことが、100周年記念誌「あしあと」に記録されています。福沢諭吉の「学問のすゝめ」とともに、学制の文面と学問の意義を紹介して、人は平等に学ぶ機会をもち、学ぶことによって身を立て世の中をつかっていくべきであること。そして子どもたちが学ぶ場をつくるために、地域の方々が苦勞して、まず満蔵院というお寺の建物を借りて学習を始め、やがて協力し合って校舎を建てた、という様子が書かれていました。この話は、ぜひ12月9日の創立150周年記念式典でも子どもたちに紹介したいと思いました。

学校で身に付けた力をもとに、世の中や地球で起きていることに目を向けて「**うけとめ**」、わかったことや考えたことを周囲に「**つたえ**」、よりよい世の中や生き方をつくらうと「**ともにあゆむ**」。学校教育目標に向かってこれからも、教職員、児童とともに釜利谷小学校で教育活動を行っていくことが、いずれ「ちきゅうのみんなをゆたかであんぜんに」することにつながるのではないかと。だから、今自分ができていることに精一杯取り組んで「150(いこう)！」と考えました。